

平成22年度 第3回栄養学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成23年1月17日(月) 16時から18時30分まで
II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
III. 出席者 : 武藤委員長、井上委員、市丸委員、中川委員、酒井委員
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV 議事概要

1. 検討内容

1) 学士力実現に必要なICT活用の授業モデル案のまとめ

(1)学士力到達目標3「食環境づくり(食情報・食物確保・食の消費と安全など)の必要性を理解し、実践できる」の授業モデル案について

大学の授業の現状や課題を踏まえて5年先を見据えた授業のあり方や授業デザイン等に関して検討した。

※この授業計画の内容について、弁当を考案して販売するということの前に、食の安心・安全について食の生産・流通のプロセスを踏まえて学生が授業で考えることが大切である。しかし、栄養士・管理栄養士養成は厚生労働省が示すガイドラインがあるので、各大学とも一応ガイドラインにしたがって授業をしていること、食の安全・安心に関する専門分野は食品衛生学、食品流通学など幅広いことなどから、授業内容を食の安心・安全に特化することは難しい。例えば、農薬の検査についても食の安全を考えるためには必要な授業内容であるが、専門知識を学習するための授業時間数の確保やそれを教える教員がいないなどの問題があげられた。これらの問題に対して、この委員会では厚生労働省の枠組みにとられないで5年先を見据えた授業モデルを示すことが必要である。

※新しい管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン)が2010年12月に示されたので、現実的にはこのガイドラインに沿った内容で教える必要がある。短大の栄養士養成よりも4年制の管理栄養士養成の縛りの方が強いので、新しいことや各大学独自の授業計画をすすめることは難しいとの意見が出された。

※学士力到達目標3のモデルは栄養教育実習で行う案が示されているが、この内容は公衆栄養学でもよいのではないか。管理栄養士養成のガイドラインは栄養疫学に偏りすぎているが食育の内容も必要である。

※学士力到達目標3のモデルはソーシャル・キャピタル、ソーシャル・マーケティングの内容を含んでいるので、その新しい考えを授業で身につけるようにデザインしてはどうかとの提案が出された。

※世界の食糧事情を踏まえて、地球規模でこれからの食の安全・安心について学んでいく必要がある。食への安全、安心について、学生に考えさせ、公平、公正、適正に判断ができることを身につけさせることが重要であり、そのための授業を設計していく。

※医療分野においては医療費節減のためにも、これからは人々の自己管理能力が大切になるので、栄養分野の学生には、チーム医療のなかで栄養面からサポートできる能力を身につけさせる必要がある。しかし、医療の現場では栄養が軽視されているのが最大の問題である。また、医療教育を世界レベルからみると日本の教育は遅れている。この現状を変えていくためにも将来を見据えた授業モデルの作成が必要である。

※学生は各教科で学んだ内容を結び付けて総合的に考える力が不足している。そのために、協働で勉強できる場をカリキュラムに入れてもよいのではないか。現実的に難しければICTの世界で創っておくことが大切である。

※新しい問題の解決には専門分野の枠内で考えるだけでは限界がある。学生同士の語らいの中から新しい視点が出てくるので、各専門分野をコラボレートする教育デザインを考えていかなければならない。

※現在の体験学習は体験内容の発表で学生の自己満足に終始している。今後は、学びを通して学生たちが社会に出た時にどのように社会に関与できるかを学ばせる。そのために、ICTを使って学生にステージを与え、学生が社会に関与できることを知り、学生側から学んだこと、気づいたことなどの学習成果を発信し、その反応を社会からもらうことによって、学生に考えさせる教育、気づきを与える新しい教育スタイルに変えていくべきである。

※現在の学生は暗記型の学習や単位取得が目的の学びが多く本質的な学びができていないことが指摘された。これからの大学の教育は、教室での一斉授業だけでなく、グループ学習、コラボレーション学習、プロジェクト学習の時間を増やし、デジタルやネット技術を活用して教員だけでなくさまざまな人々と協力して多様な方法で学ぶように改革していくこと、若者は人に役立てたいとの意識は持っているので、教育によってそれを実現する力をつけさせることが大切であるなどの意見が出された。

以上の議論を踏まえて、到達目標3の授業モデル(案)については、体験学習の事例として取り上げ、社会と関わることで学生の志気が高まることから、学生に発表というステージを与え、大学、社会から意見を聞く授業モデルとすること、「食と健康」を中心とした地域連携を推進している室伏先生の案も取り入れて幅広いテーマ授業モデルとなるように再度まとめ直すこととなった。

(2) 学士力到達目標5「栄養マネジメントを実施できる」の授業モデルについて

前回委員が提案した授業モデル(案)をイメージ・フォーマットにまとめ直してもらい、メンバーリストで意見交換をして、次回の委員会で検討することになった。

2) 今後の検討スケジュールについて

平成22年度中の第4回委員会において、2つの学士力実現に必要なICT活用の授業モデル(案)を再検討して提案できるようにし、中間のまとめとする。

V. 次回の開催日程

日時：平成23年3月29日（火） 16:30～18:30

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

以上